



久喜市高齢者大学のクラブ活動としてハーモニカクラブを発足しました。現在は、同好の方はどなたでも一緒にとの意味で、サークル名を現在の名称に替えて活動しています。

久喜地区

久喜市高齢者大学のクラブ活動としてハーモニカクラブを発足しました。現在は、同好の方はどなたでも一緒にとの意味で、サークル名を現在の名称に替えて活動しています。メンバーは、現在21名。練習日は毎週土・日午前中、曲は昔懐かしい抒情歌を中心に誰でも知っているような易しい曲を演奏し、ハーモニーを楽しんでいます。発表会のほか市内の福祉施設やいきいきサロンなどに参加、演奏と歌で交流させていただいています。私たちの活動も年月を経て、メンバーも高齢となりましたが、訪問先で喜んでいただけるので、これを励みに続けています。音楽を通しての楽しい仲間づくりどうぞご参加ください。歓迎します。



本多静六博士が昭和二十七年一月二十九日享年八十五歳で亡くなられてから、没後四十年を記念して平成四年に「本多静六博士を顕彰する会」として発足、博士の情報発信組織としての役割を担って参りました。平成十九年七月に更に強固に、しかも全国的な組織に発展させるべく「顕彰する会」を「顕彰する会」に改め、今日まで活動を続けて来ました。この間、情報発信源として「本多静六通信」を、毎年発行し、没後五十年を記念し、平成十四年には小学生高学年向けの「日本公園の父本多静六」を、又「日本林学界の巨星本多静六の軌跡」を発行しました。没後六十年（平成二十四年）には市の記念事業として「本多静六記念館」を葛蒲総合支所五階に開館し、この運営に際し顕彰する会のボランティア活動として、毎週「水木金」の三日間を案内役としてお手伝いさせて頂いています。市民の皆様にはぜひ一度葛蒲総合支所内の「本多静六記念館」にお越しください。

葛蒲地区

平成27年1月1日 発行

第9号

編集：久喜市生涯学習推進部
発行：久喜市教育委員会

久喜市生涯学習だより

まなびすと久喜

資源・エネルギー、食糧、環境等の問題が地球規模で拡大している今、世界という舞台で活躍できるグローバル人材の育成が求められる。それは既存の社会や経済の考え方、仕組みが崩れかけた明治期と類似した転換期と見ることもできる。国は、教育再生実行会議の提言を受け、日本の若者の内向き志向を打破するための改革に着手し

慶応三年四月、最後の將軍徳川慶喜の弟、昭武に従っていた浪沢栄一はマルセイユ港に降り立つ。パリ万国博覧会への参加とナポレオン三世への謁見が目的であったが、その滞在中に欧州各国を歴訪、当時最先端の科学技術、社会経済制度を学ぶ。特に栄一に大きな影響を与えたのは、当時の日本と大きく異なる先進国の人々の考え方であった。程なく大政奉還のため帰国を命じられるが、その後も意欲的に欧州各地を視察、このことが日本に大きな収穫をもたらすこととなる。



久喜市教育委員会教育長 柿沼光夫

ふりかえれば未来が見える

た。その一つが小・中学校での英語教育の充実である。フランス滞在中の浪沢栄一が最初に行ったのは語学教師を雇い入れ仕事の傍ら、フランス語の習得に努めたことである。そういう意味でも、語学習得はグローバル人材育成の第一歩である。しかし、それ以上に重要なことはグローバル人材の中身である。世界を相手に伍していくためには、一人の人間として自立し、しなやかな知性を有し、そして日本人としてのアイデンティティというべき教養を身に付けていることが求められる。習慣や考えの異なる多くの国の人々の集団の中で、日本人としての立ち位置がしっかりしていることに意味がある。

浪沢栄一が生きた同時期「靈魂教舎」を久喜に開き、多くの門弟を指導した中島撫山、久喜市出身でドイツに留学し日本初の林学博士となった本多静六など、どの時代にあっても、困難に挑み、人々と力を合わせて新たな道を切り拓いてきた先人の生き方やその精神は、グローバル化する社会に対応する教育に欠かせない。

久喜市生涯学習施設紹介

- ★所在地 久喜市鷺宮5-33-1
- ★電話 0480(58)1002
- ★アクセス 東武伊勢崎線鷺宮駅東口から徒歩15分、JR宇都宮線東鷺宮駅からバス「川口三丁目」行き「図書館入口」下車
- ★休館日 月曜日、祝日開館の振替日、年末・年始、館内整理日（毎月最終金曜日）、特別整理期間
- ★開館時間 10:00～18:00



鷺宮図書館

鷺宮地区



栗橋文化会館図書室

栗橋地区

- ★所在地 久喜市伊坂1557番地（栗橋文化会館内1階）
- ★電話 0480(52)2000
- ★アクセス JR宇都宮線・東武日光線栗橋駅東口徒歩20分
- ★休室日 火曜日、祝日開室の振替日、年末・年始、館内整理日（毎月最終金曜日）、特別整理期間
- ★開室時間 9:00～17:00

栗橋文化会館図書室は、小ぶりの図書施設ですが、資料貸出業務のほか、ボランティアさん協力のもと、おはなし会等の事業も行っています。本年度は、栗橋文化会館に隣接する久喜市指定有形文化財吉田家水塚を使用した昔ばなしの語りの会を、新たに開催しました。水塚の見学等で栗橋地区にお越しの際には、ぜひご来室ください。

第5回生涯学習推進大会 まなびすと久喜

平成27年1月31日(土)・2月1日(日)
会場 久喜市中央公民館 全館・屋外

大会テーマ 「みんなでつくろう まなびの街を」

第1日目

1月31日(土) 午後1時～4時
開会式 まちづくりフォーラム：大集会室

1部 基調講演「みんなでつくろう まなびの街を」
講師：埼玉県教育局生涯学習文化財課 社会教育主事 市川 重彦氏

2部 パネルディスカッション「わたしのまなび」
パネラー 山中今日子氏、鈴木 富男氏、
幅谷 克氏、矢作 理恵氏
司会 金子 雄司氏

第2日目

2月1日(日) 午前10時～午後3時30分
まなびすと発表会・各イベント

〈フロアテーマ〉

1階	輝け☆この場所から♪
2階	みんなで楽しもう!!ものづくり
3階	楽しくやってみよう!
4階	未来にはばたけ まなびの街
屋外	あたたかな食と心で広がる和

久喜市高齢者大学 で学ぼう!



1979年(昭和54年)6月1日

高齢者に対し、実際の生活に即した教養の向上を図り、趣味活動や社会参加による生きがいを高めることを目的としています。

「学ぶ・なかま・元気・協力・楽しく」をキーワードに、人と人とのふれあいに溢れ、楽しい人間関係の中で互いに助け合い、励まし合って友情の輪を広げ、「高大の3本柱」(学習・クラブ活動・ボランティア活動)のもと活動しています。

開設年月日

開設の目的

特色



1995年(平成7年)9月10日

市民の生涯学習活動・ボランティア活動への理解を深め、まちづくりの指導者やリーダーを育成することを目的としています。

基礎講座・一般講座(まなびすと講座)を重点的に編成し、特に生涯学習のリーダーとしての体験学習が多く設定してあります。

久喜市市民大学 で学ぼう!

概要

1.条 件 久喜市内在住30歳以上 定員1学年40名 高齢者大学との併願はできません。

2.修 学 年 数 2年制の大学で、大学院(1年)を併設しています。

3.卒業生の人数 大学卒業419名 大学院修了168名

4.在校生の人数

第1学年 17名(久喜地区 8名 菖蒲地区 1名 栗橋地区 2名 鷺宮地区 6名)

第2学年 21名(久喜地区 12名 菖蒲地区 1名 栗橋地区 2名 鷺宮地区 6名)

大学院生 1名(鷺宮地区 1名)

5.大学の 内容

基礎講座 久喜市についての基礎理解を深める講座

久喜市の市政、歴史、教育・文化、自然、風土、人物など

教養講座 専門的な教養講座

政治、経済、教育、文学、芸術、健康、福祉など

まなびすと講座(一般講座)

生涯学習活動・ボランティア活動の推進者としての実践力を身に付ける講座

特別講座 学長講話、副学長講話、講演会

特別活動 体験発表会、研究紀要の作成(第2学年)、視察研修等

講 座 1講座90分、第1学年30講座、第2学年20講座

会 場 等 1年生は、主に金曜日(19時~21時)に19講座

2年生は、主に水曜日(19時~21時)に10講座

会場は、主に中央公民館(久喜駅西口から徒歩5分)

各学年とも、土曜日に8~9講座があります。

6.卒業後の活動

- 久喜市に関わる各種行政委員を務めたり、社会教育委員、生涯学習推進会議委員、生涯学習推進部委員など生涯学習の推進者として活躍
- 市民まつりや放課後子ども教室「ゆうゆうプラザ」をはじめとする各種ボランティアのリーダーとして活躍
- 市民大学大学院や高齢者大学、県のいきがい大学に入学
- サークル活動や、趣味活動など幅広く活動

概要

1.条 件 久喜市内在住60歳以上 定員1学年220名

2.修 学 年 数 4年制

3.卒業生の人数 3,773名

4.在校生の人数 1学年90名 2学年90名 3学年83名 4学年108名
合計371名

(久喜地区 226名 菖蒲地区 31名

栗橋地区 54名 鷺宮地区 60名)

5.大学の 内容

大学の教育課程は、「教養・健康・学校行事」の学習領域と自主活動により編成されています。

学習領域

(1)教養を高めるための学習(2)健康に関する講座(3)学校行事(新入生歓迎集会、音楽芸能祭、現地研修や修学旅行、体育祭、発表会等)

自主活動

(1)クラブ活動(同好の者が集まり、活動を通して自己実現を図る。多種多様なクラブがある)

(2)ボランティア活動(環境浄化、福祉活動、教育支援活動、地域活動等)

6.卒業後の活動

- OB会を結成し、仲間との絆を楽しんでいる。
- クラブ活動を継続し、作品展や発表会等で成果を発表している。施設慰問等も行っている。
- 放課後子ども教室「ゆうゆうプラザ」や市民まつり等ボランティア活動に参画している。

7.在校生の 声

- たくさんの仲間ができ、入学して本当によかった。
- 大学祭等の行事や準備を通して協力していくことの素晴らしさが実感できた。
- 学習後の雑談・コミュニケーションも楽しい。
- 身近な、地域の知らないことをたくさん知ることができた。

8.卒業生の 声

Aさん 夫を亡くし、引きこもり気味だった私は、幼馴染みから高齢者大学のあることを聞き、一抹の不安を抱きつつも入学しました。入学式に始まり、秋の運動会では、玉入れや障害物競走等ドキドキ、ハラハラ楽しい一日を過ごしました。

作品展では素人離れた作品の数々に目を見張り、芸能祭では練習の成果を文化会館の大ホールで発表。生まれて初めての大舞台で緊張しましたが、終わった後の達成感は何とも嬉しく気持ちの良いものでした。クラブ活動では、手の出せなかったパソコンを習得することができました。4年間はあっという間でした。

卒業後は、クラブ活動を続行し、地域活動にも積極的に参加、高齢者大学で得た経験と知恵をふるに活用し、毎日が生きがいのある楽しい人生に生まれ変わることができました。

Bさん 広報「くき」で知り入学したが、会社勤めをしていた時とは異なる友達ができたことは、大きな収穫である。卒業後もクラブ活動を継続。太極拳クラブで心身を鍛え、公民館まつりやまなびすと発表会に参加し披露している。また、友人たちと野菜作りを楽しみ、地域活動では防犯パトロールに参加し、充実した日々を過ごしている。



市民がつくる まなびのまち

久喜市では、市民が主体的・自主的に生涯学習に関わり、心のふれあう潤いと活力に満ちた地域社会を築いていくための、生涯学習推進計画(久喜市まなびすとプラン)を策定しました。

計画の4本柱「まなび」(さまざまな学びの提供)と「いかず」(学んだことがいかせる場の整備)を「つなぐ」(学びでつなぐネットワークの推進)・「ささえあう」(学びを支え合う体制作り)ことで豊かな人づくり、まちづくりを目指すものです。

今回は、「まなび」場として、高齢者大学と市民大学を紹介します。

生涯学習は、特別な学習ではありません。まず、みなさん一歩を踏み出してみませんか。新しい自分との出会いを楽しんでみようではありませんか。

問合せ 生涯学習課 ☎480(85)1111 内線363
市のホームページでもご覧いただけます。

7.在校生の 声

- いろいろな立場の人との出会いで、ものの見方や考え方の刺激を受けた。
- 生涯学習やボランティアについて学ぶことができた。
- 「市民まつり」や「まなびすと久喜」等のボランティア体験ができた。
- 久喜市について理解することができた。

8.卒業生の 声

Aさん ずっと専業主婦できた私…、いつも何かやりたいとは思っていましたが、なかなか一歩が踏み出せないままでした。ある時、友人に誘われたのが市民大学でした。不安のままの入学でしたが、いつの間にか、不安は楽しさ・喜びに変わっていききました。一歩踏み出してよかったと心から実感しました。声をかけてくださる人が、ひとり、またひとりと増え、輪が広がっていききました。また、14名の学友との出会いは、私の未知な一人一人の世界に触れることができ、とても新鮮でした。

今は、「市民まつり」や「ゆうゆうプラザ」、子育て支援のボランティアに参加。また仲間とともにパソコンの勉強を続け、新たな仲間との出会いも楽しみながら日々豊かに過ごしています。

Bさん 仕事一途の生活で、地域の一員としての自覚もないまま、退職後をいかに豊かに過ごせるかが大きな課題でしたが、市民大学との出会いは大きな収穫があった。損得なしの多くの人とのかかわりは財産であり、地域の方々との交流も増え、地域活動や様々なボランティア活動に関わり、地域に貢献できる喜びを感じている。

